

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2019年 4月 24日 提出

1. 研究課題名	
近代木版口絵のデジタル研究環境基盤整備 (英文標記: Infrastructure Development of Digital Research Environment for Modern Woodblock-printed <i>Kuchi-e</i> (Frontispieces))	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
朝日 智雄(あさひ ともお)	口絵研究家
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
赤間 亮(あかま りょう)	立命館大学・文学部
常木 佳奈(つねき かな)	立命館大学大学院・文学研究科(院生)

4. 研究課題の概要(300字程度)
<p>本研究は、口絵イメージデータベースおよび口絵総合データベースを構築し、同資料のデジタル研究環境基盤整備に取り組むものである。明治中期から末期にかけてのある特定分野の書物には、高確率で木版多色摺口絵を確認することができる。これらは同時代の出版や読書文化を窺い知ることができる貴重な資源であるにも関わらず、その形態的特性ゆえの扱いづらさから、いずれの研究分野からも敬遠されてきた。以上の背景を踏まえ、本研究は、近代木版口絵の最大級コレクション・朝日コレクションを中心に他機関所蔵資料についてもイメージデータベースとして公開し、その学術的価値の再検討を通じて、同資料を人文学研究の俎上に載せることを目的とする。今年度は、研究代表者が蒐集した数千点の口絵のイメージデータベース化と、総合データベースを作成することに集中的に取り組む。</p>
5. 研究成果の概要
<p>2018年度は、研究代表者が所蔵する口絵関連資料のうち、書物から取り外された状態で蒐集された作品、約3,000点についてデジタルアーカイブを構築した。全3回に分割して実施したデジタル撮影作業では、その都度、三島から立命館大学アート・リサーチセンター(以下、ARC)へ資料を輸送し、同センター内で撮影を行った。その後、ARCのデータベースシステムを活用し、画像データの制限付き公開をしているが、メタデータに関しては現在入力を進めている段階である。メタデータについては、研究代表者がすでに整理を進めていたものを流用し、すべてのデータが入力され次第、近日中には広く一般に公開する予定としている。また、当該年度中には、総合データベースの構築に着手することができなかったため、2019年度の課題としたい。</p> <p>データベースの公開のほかには、学術雑誌への論文投稿や学会での口頭発表を行い、積極的に成果報告を行った。</p>